ネットワーク大府での活動を終えて

活動先　ネットワーク大府

☆　１．ネットワーク大府の紹介　☆

（１）ネットワーク大府の発足

　高齢社会の進展と共に､核家族が進み　一人暮らしの老人も確実に増加しつつある現代社会の中で､日常の生活を維持することが困難になった時、短時間の助け合い､わずかな援助で､住み慣れた地域社会の中で､人生をまっとうできる事も多いのではないかと　新しい市民参加の互助システムの構築を目指して､平成４年９月｢大府市地域福祉を考える会　ネットワーク大府｣が設立された。住民参加型の在宅介護･家事援助を柱として､地域住民の要望に沿った種々の活動･地域の福祉力を高める活動を始めている。

（２）発足からの歩み

　在宅介護･家事援助を始めるにあたっては､ボランティアだけでは限界があると考え､会員相互の互助組織という形をとり､活動を重ねてきた。介護･家事援助の他､移送･送迎サービス､公共機関への代行、託児･託老等を行い､又地域の福祉力を高める目的で２級ヘルパー養成講座をはじめ、その他色々な養成講座を開講している。

　平成１１年９月「特定非営利活動法人ネットワーク大府」となり、介護保険が開始されるにあたっては、今までの利用者との人間関係を損なうことなく継続して援助を行っていくために､介護保険事業所としての認定を受けていこうと　平成１１年１０月指定訪問介護事業所､平成１２年２月指定居宅介護支援事業所の指定を受け､介護保険事業にも参入した。平成１３年７月には､通所介護事業所の指定も受け､デイサービス「あいこでしょ」。平成 15 年 4 月より、デイサービス「このゆびとまれ」をオープン。さらに地域に密着したサービスを提供できるようになった｡平成 17 年 5 月には認知症老人対応型グループホーム｢若草」を開所。一人暮らしが困難になった方が家庭的環境の中で生活されている。平成１９年３月には小規模多機能地域密着型施設「多機能ホームいしがせ」を開設した。「通って・泊まって・訪問して」の機能を備えた新しいかたちの介護保険サービスを提供している。

　また、平成 15 年 4 月より、障害者支援費制度が始まりましたが、ネットワーク大府は障害のある方にとって、本当に住みやすい地域となるよう「居宅介護事業所」としてサービスを開始した。

　平成 12 年 5 月より開始のホームヘルパー養成研修講座（2 級課程)。平成 15 年 11 月よりはガイドヘルパー養成研修（重度視覚障害者・全身性障害者）を、平成 16 年 3 月からは

精神障害者ホームヘルパー養成特別研修講座を開講、平成１９年から行動援護従事者研修を開講している。

☆　２．当初の活動目的や目標　☆

＜活動目的＞
・それぞれの施設ではどのような仕事をしているのか？
・デイサービスやグループホーム等高齢者施設ではどう違うのか？

＜活動目標＞
・それぞれのネットワーク大府の高齢者施設やネットワーク大府全体の活動について学ぶ。

☆　３．自分たちの活動内容　☆

私たちは６日間の実習でそれぞれ違う活動先に行かせていただきました。

・指定（予防）訪問介護事業所
要支援１・要支援２と認定された方が対象で、ご利用者個々人の状態に応じて、おおむね週に１、２回ヘルパーを派遣し、自立に向けた日常生活支援を行っている。

・デイサービス「あいこでしょ」
家庭的雰囲気で地域に密着したネットワーク大府ならではのたくさんのボランティアを呼び、近くの幼稚園児が歌を歌ったり、カラオケや詩吟、誕生日会等を開いている。

・追分デイサービス「このゆびとまれ」
追分デイサービスは人数が多く、利用者さんは活動的で元気だった。アットホームで家庭的な雰囲気だった。

・グループホーム「わかくさ」

グループホームわかくさでは、ご利用者様が家庭的な環境の中で「なじみの関係」をつくりあげ、過去に体験した「想い」を暮らしの中で展開できるよう、援助する。
グループホームわかくさは、以前、民家として使用していた建物を改装しているので、懐かしくあたたかな雰囲気で、落ち着いて高齢者が生活している。

・多機能ホーム「いしがせ」

皆にあまり馴染みの少ない制度ですが、「泊まって・通って・訪問して」という３種類のサービスを一箇所で提供することができます。普段通っている馴染みの場所で、馴染みのスタッフにサービスを受けることができるというのが最大の特徴である。
「和やかで、くつろげる場所」を大切に、それぞれの利用者様に合った対応を心がけている。

・キッズクラブ

教員免許を持っているスタッフが小学校低学年の生徒を中心に学校の宿題や勉強の指導をします。おやつをみんなで作って食べたり、みんなで遊んだりした。

☆　４．活動における問題点や学んだこと　☆

＜問題点＞

・職員と学生間のコミュニケーション不足
・ネットワーク大府の事業所間での連絡不足

→自分たちは理事長や実習担当者の方を通して連絡しており、各施設に実習のことは連絡済みだと思いこんでいた。施設に訪問してみると実習させていただく各施設には今回のことが連絡されておらず、どうしていいか戸惑った。

事前の相談のときに理事長や実習担当者からのアドバイスで中止することになった企画を、各施設では学生がやってくれるのだという連絡の行き違いがおこり、私たちが当日全く予定していなかった企画を行うことになり、材料や道具等を施設側で緊急に負担してもらうことになってしまった。

それぞれの施設にもご迷惑をかける結果になったし、私たちも十分準備もできず後悔が残ってしまった。

・話を聞いたりプログラムを受けるだけの受け身になってしまった。
→当日ヘルパー講習の修了式が行われており、それに参加するよう勧められ出席した。しかし実際には受講生の感想を聞かされて、最後に自分たちも状態のよくわからないままに感想を述べただけで終わってしまった。この講座の概要などについて事前に教えていただければ、もっと関心をもって参加することができたと思う。結果として椅子を並べたり出欠をとったりと、職員に言われることをやるだけの受け身のプログラムになってしまった。

・きちんと目標が伝えられず目標を達成できなかった。
→利用者やスタッフの方々と上手くコミュニケーションをとりたいという目標を１日目は持っており、自分たちから行動し何をしたらよいのか等積極的に質問すると「こちらに座っていてください」と言われ、そのまま時間が来るまで何も行動することが出来なく戸惑ってしまった。
　忙しいスタッフの人たちにその日の私たちの目標を伝えるには、つい遠慮してしまったが、それだと最後までお客様扱いで、何もできないままであった。

・結果として私たちの活動をふりかえると、全体的に何を学んできたのか、何を学べたのかよくわからなかった。活動先での出来事のひとつひとつに戸惑いが多く、自分たちから積極的に行動することが出来なく、このような結果に終わってしまった。
　反省ばかりの活動になってしまったが、こうしたことを来年に生かしていきたい。

＜課題＞
・連絡のとり方に気をつける
・目標をしっかり持って、より積極的に活動にあたる。

☆　５．次年度活動をする学生へ　☆

・受け身にならず積極的に行動する。
・地域についても調べる。
・活動先との連絡はこまめにとる。
・活動先ときちんと実習時間、内容等の契約内容を事前に確認しておく。
・活動先の人たちときちんとコミュニケーションをとることで自分のためになることが学べると思う。
・活動が終わったらすぐに活動記録を書くようにする。